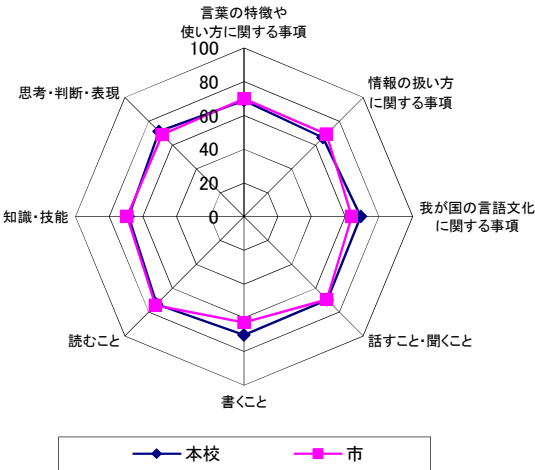


宇都宮市立白沢小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.9	69.9	72.3
	情報の扱い方にに関する事項	66.3	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	69.2	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	69.9	69.5	71.5
	書くこと	70.2	62.8	67.1
	読むこと	73.4	74.4	73.7
観点別	知識・技能	68.5	69.4	71.9
	思考・判断・表現	71.4	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

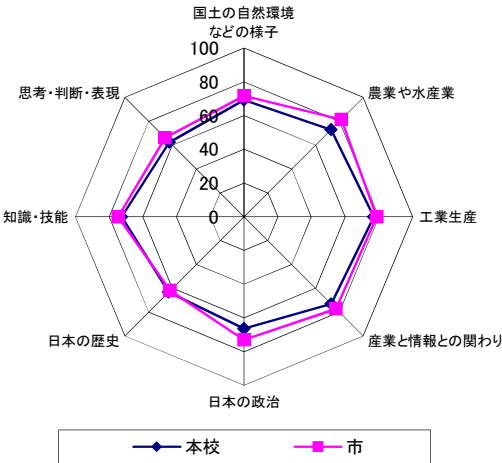
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は、市平均を1ポイント下回っている。 ○第5・6学年の配当漢字の読み書きにおいて、6問のうち4問の正答率が、市平均を上回った。また、残りの2問においても市平均とほぼ同等の結果であった。 ●三字の熟語の成り立ちについての設問では、正答率が51.9%と市平均を15.5ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、定着を図るために、家庭学習ではドリル等を活用し、国語の授業では毎時間小テストを行うなど、スモールステップの学習を継続的に繰り返し取り組む。 ・漢字や語句、熟語などの理解を深めるため、国語辞典や漢字辞典の活用を習慣化するよう、授業だけでなく家庭学習でも利用するよう助言する。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市平均を2.9ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、正答率が78.8%と市平均を5ポイント下回った。	・情報活用能力を高めるために、複数の文章を並行して読み比べたり、要点をまとめたりする活動を授業の中に適宜取り入れるようにする。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市平均を5.4ポイント上回っている。 ○和語、漢語、外来語についての設問では、正答率が69.2%と市平均を5.4ポイント上回った。	・語句の由来や意味などを国語辞典や漢字辞典を活用して調べ、言語への理解を深める活動を今後も継続して授業に取り入れていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均を0.4ポイント上回っている。 ○話の内容を捉える設問では、正答率が78.8%と市平均を2.6ポイント上回った。 ●意図に応じて質問を工夫する設問では、正答率が63.5%と市平均を2.7ポイント下回った。	・学級活動や朝の会等での話し合いで司会者となり、話し手の意図を考えながら、内容をまとめる体験ができるような場を多く設定する。 ・ペア学習やグループ活動などで互いの考えを交流させるなど、学び合い活動において、話すこと・聞くことへの指導の充実をさらに図る。
書くこと	平均正答率は、市平均を7.4ポイント上回っている。 ○指定された長さで文章を書く設問では、正答率が82.7%と市平均を14.5ポイント上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を書く設問では、正答率が53.8%と市平均を0.8ポイント下回った。	・作文の構想を組み立てたり、2段落構成、字数制限内で書くといった条件付き作文を書いたりする時間を設けて、さらに書く力を高める。 ・文章や表、グラフなどを正確に読み取る力を高めるとともに、自分の考えを根拠を踏まえて書くことができるように丁寧に指導していく。
読むこと	平均正答率は、市平均を1ポイント下回っている。 ○登場人物の心情について、描写をもとに捉える設問では、96.2%と市平均を5.5ポイント上回った。 ●叙述を基に文章の内容を捉える設問では、正答率が55.8%と市平均を9.4ポイント下回った。	・物語文や説明文などの文章をしっかりと読み取ることができるように、根拠となるキーワードを見つけたり、ワークシートを活用したりして学習を展開していく。 ・読み取った内容の考えを互いに交流させる学び合いの学習の充実を図る。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.2	71.6	67.5
	農業や水産業	73.1	81.5	82.1
	工業生産	76.9	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	73.1	77.2	68.2
	日本の政治	66.3	73.1	77.9
	日本の歴史	63.2	62.0	65.8
観点別	知識・技能	72.6	74.6	74.5
	思考・判断・表現	62.5	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

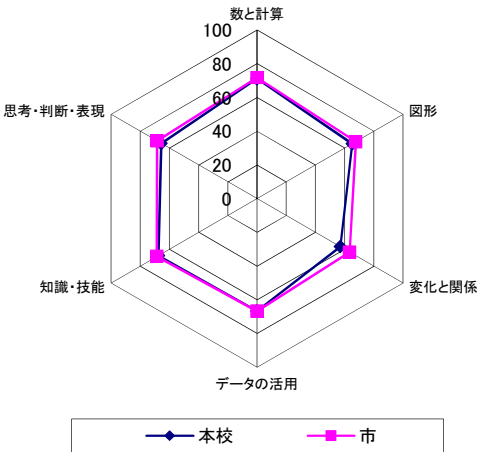
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市平均を2.4ポイント下回っている。 ○日本の周辺の海洋名についての設問においては、正答率が86.5%と、市平均を0.8ポイント上回っている。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る設問において、正答率が34.6%と、市平均を2.5ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本周囲の国名や国土の特色だけでなく、地形の名称にも目を向けて、資料集や地図帳などの各種資料を積極的に活用したり、重要なところを繰り返し復習したりして、理解が深まるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市平均を8.4ポイント下回っている。 ○カントリーエレベーターの役割についての設問では、正答率が90.4%と、市平均を7.9ポイント上回っている。 ●地産地消の取り組みについての設問においては、正答率が61.5%と、市平均を21ポイント下回っている。	・教師が、学年で身に付けるべき知識をより明確にし、児童が知識の確実な習得を図れるようにする。 ・習得した知識を資料を活用して表現できるように、白地図やグラフなど複数の資料を読み取る機会を設けるようにする。
工業生産	平均正答率は、市平均を1.8ポイント下回っている。 ●自動車の出荷における設問において、正答率が61.5%と、市平均を0.7ポイント下回っている。 ●日本の輸出品について、資料を読み取る設問では、正答率が76.9%と、市平均を4.6ポイント下回っている。	・資料をもとにテーマについて考え、自分の言葉で表現することに課題が見られるので、普段から自分の考えをまとめ、表現する機会を積極的に設けるようにする。 ・グラフを読み取り、移り変わりの様子について考えることに課題が見られるので、どの項目に着目すればよいのかを指導し、資料の見方への理解を深めるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市平均を4.1ポイント下回っている。 ●メディアの特徴に関する設問では、正答率が86.5%と、市平均を5.2ポイント下回っている。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて判断する設問では、正答率が59.6%と、市平均を3.2ポイント下回っている。	・情報産業が私たちの生活に密着したものであることに気づかせるため、調べ学習を通して自分の考えをまとめ、資料を活用して表現する活動を取り入れる。
日本の政治	平均正答率は、市平均を6.8ポイント下回っている。 ●日本国憲法についての設問では、正答率が69.2%と、市平均を7.4ポイント下回っている。 ●図に着目して国民による政治の仕組みを判断する設問では、正答率が48.1%と、市平均を1.9ポイント下回っている。	・日本の政治の仕組みについて、資料を用いて調べ学習を行い、興味関心を高めつつ知識の定着を図る。 ・政治への関心が低いことが課題であるため、生活と政治を関連付けて考えられるように教材を工夫して指導し、政治を身近に感じられるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市平均を1.2ポイント上回っている。 ○室町文化に関する設問では、正答率が76.9%と、市平均を18.8ポイント上回っている。 ●鎌倉幕府が置かれた場所について、資料を読み取る設問では、正答率が48.1%と、市平均を16.7ポイント下回っている。	・各時代の主な出来事や特色について、教科書や資料集などを用いて自分なりにまとめる活動を通して理解を深めるようにする。 ・歴史的事象を様々な見方で捉えられるように「なぜ」という疑問を児童が持つような学習課題を設定する。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.2	71.8	76.2
	図形	65.2	67.7	67.8
	変化と関係	57.1	63.4	62.7
	データの活用	66.7	66.7	61.5
観点別	知識・技能	67.5	68.6	70.7
	思考・判断・表現	65.6	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

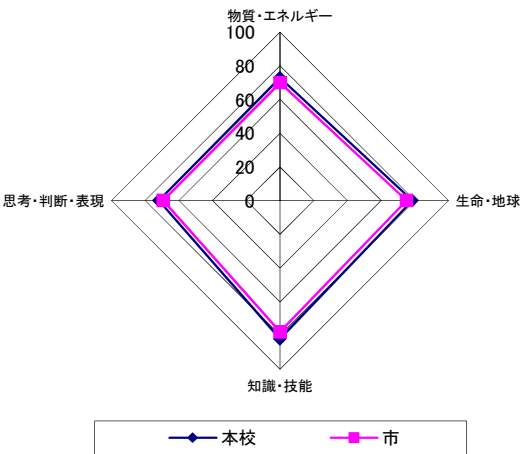
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均を0.6ポイント下回った。 ○小数同士のかけ算、分数同士のかけ算・わり算、図を使った小数倍の文章問題では、市を上回った。 ●小数同士のわり算、文字を使った式が表す場面を選ぶ問題や、分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ問題では、市の平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数の除法の計算の仕方を理解させ、分数どうしや分数と整数・小数の混ざった計算ができるよう、ドリルなどで反復練習を進める。 ・課題解決の力が定着するよう、文章題などを数多く解き、数字や文字の表す意味を考えて立式する学習を取り入れる。
図形	平均正答率は、市平均を2.5ポイント下回った。 ○三角形の面積を求める式を選ぶ問題では、市平均を2.3ポイント上回っている。 ○点対称な図形の対応する辺を見つける問題では、市平均を4.3ポイント上回っている。 ●直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では6.5ポイント、正五角形の作図から、円の中心の周りにできる角の大きさを求める問題では16ポイント、市の平均より下回っている。	・さまざまな形の面積、体積を求める問題を数多く解かせ、定着を図る。 ・2直角、4直角の大きさや立体の見方など、図形の基礎・基本を復習する。 ・過去に学習してきた内容を振り返り、素地的体験と知識を結びつけながら指導に当たる。
変化と関係	平均正答率は、市平均を6.3ポイント下回った。 ●単位量あたりの大きさでどの小屋が最も混んでいるかを考察する問題では、市平均を10.8ポイント下回った。 ●単位量あたりの速さで分速を秒速や時速に直す問題では、市平均を6ポイント下回った。 ●基準量と比較量から、割合を求める問題では、市平均を2.4ポイント下回った。	・単位量あたりの大きさ・速さについて復習し、その意味や求め方を理解させ、反復練習で定着を図る。 ・速さを求める公式を覚え、しっかりと活用できるようになるまで繰り返し学習する。
データの活用	平均正答率は、市平均と同じだった。 ○データの見方のドットプロットから中央値を読み取る問題では7.6ポイント、値に0がある平均を求める問題では4.3ポイント、それぞれ市平均を上回った。 ●柱状グラフ(ヒストグラム)から分かることを読み取る問題では、市平均を5.9ポイント下回った。	・グラフの活用の学習を多くし、グラフの見方やそこから分かることは何かなど、読み取れるように繰り返し学習する。 ・日ごろから代表値を用いて、その記録が全体の中で何を表しているのか考える学習を多くする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.8	69.9	67.8
	生命・地球	78.5	75.1	73.7
観点別	知識・技能	82.0	77.8	78.4
	思考・判断・表現	71.9	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均より2.9ポイント上回っている。 ○5年の学習内容「ふりこのきまり」では、「実験結果を基に条件を変えたふりが1往復する時間を推測する設問」において、市の平均正答率より5.9ポイント上回った。 ○6年の学習内容「水溶液の性質」に関する設問では、「炭酸水から出る泡が二酸化炭素であること」や「赤色リトマス紙の様子から水溶液の液性を推測すること」、「アルミニウムと塩酸が反応してできたものとアルミニウムを区別する方法を推測すること」において、市の平均正答率より10ポイント以上上回った。 ●5年の学習内容である「電流のはたらき」では、「コイルの巻き数と電流の強さに関する設問」において、市の平均正答率より10.5ポイント下回った。また、「電磁石の性質を利用した道具に関する設問」においても、市の平均正答率より8.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・定期的に前学年での授業内容を復習したり、関連する内容を扱う際には今までに習ったことを想起させたりして、学習内容の定着を図る。 ・実験器具の扱い方について、定期的に指導し、定着を図る。 ・今後も日常生活の中で「なぜだろう」と思う事象から授業につながるなど、日常の生活と理科がつながっていることを実感させる授業展開を行い、興味関心を高めていく。 ・実験を行う際に、「なぜこの実験を行うのか」や「この実験を行うと何が分かるのか」を子供たちと共有し、結果の予想や実験の結果をまとめ、考察するという学習の流れを大切に、科学的な思考力を高める。
生命・地球	平均正答率は市の平均より3.4ポイント上回っている。 ○6年の学習内容「月と太陽」では、「観察カードの月の様子から、月を観察した時刻を推測する設問」において、市の平均正答率より15.1ポイント上回った。 ○6年の学習内容「動物のからだのつくりとはたらき」では、「呼吸のはたらきについて記述する設問」において、市の平均正答率より10.3ポイント上回った。 ●5年の学習内容「植物の発芽と成長」では、「発芽の条件を調べる実験結果を推測する設問」において、市の平均正答率より5.5ポイント下回った。また、「目的に合った対照実験を計画する設問」でも、市の平均正答率より6ポイント下回った。	・実験を計画する際には、予想を基にどんな実験をするか考えさせたり、予想が正しかった場合に得られる結果を推測させるなど、主体的に学習に取り組めるよう、授業改善を行っていく。 ・自然の事象や生命に関することにおいて、学習とのつながりを意識した話題を提供し、生活経験や知識の個人差を補充するとともに興味関心を高めるようにする。また、人体の仕組み等実際に観察できないものは、PCや視聴覚教材を利用していくようにする。 ・理解が確実にできるよう、友達に伝えたり、自分の言葉で表したりする活動を授業の中で多く取り入れていく。

宇都宮市立白沢小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合い活動の充実	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現力や思考力が身に付くように指導している。	国語では「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が市平均と同じくらいであるが、「読むこと」の領域では市平均を下回った。算数では「図形」と「データ活用」の領域において、市平均と同じであった。
言語活動の質的向上	各教科において発達段階を踏まえた指導のねらいを明確にし、読書活動を推進している。また、各教科において感じ取ったことを言葉、絵、身体などを用いて表現するようにしている。	国語の「言語事項」では、半分の項目で正答率が市平均を上回った。また、「書くこと」の領域では、半分以上の項目で、正答率が市平均を上回った。算数では、「変化と関係」の領域で市平均を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学習と生活についてのアンケート結果をみると、学年差はあるものの、児童が学習に対する必要性を感じながら、積極的に取り組む姿勢がうかがえる内容であった。また、6年生の学習内容定着度調査の結果からは、基礎・基本について徐々に身に付いてきている部分もあるが、まだまだ課題も多く見られた。そこで、次年度は今年度の学校課題を継続し、「基礎・基本の定着を図り、表現力を高める言語活動の工夫」を行っていくとともに、楽しくすっきりした授業を心がけ、「一人一人が主体的に取り組む、いきいきと学び合う児童の育成」に努めていきたい。